

溶接・板金コースについて、よくある質問

Q このコースに入るとどんなことができるようになりますか。

A 金属を高温のアーキ(電気)で溶かして接合する溶接技術や、薄い厚さの金属プレートから部品をレーザーカットで切り抜き、折り曲げ加工や溶接をしてモノを作る板金加工の技術を身に付けることができます。

Q どのような資格が取得できますか。

A 溶接や板金のお仕事をする会社では、知識が無いまま機械を操作しようとする重大な労働災害を引き起こしてしまうかもしれません。そのため労働災害が起きないように安全教育を実施するように法令で定められています。溶接・板金コースでは訓練期間中に「ガス溶接技能講習」、「アーキ溶接特別教育」、「自由研削といし特別教育」「動力プレス特別教育」を実施して修了証を取得してもらい、安全に作業を身に付けていただきます。

また、JIS(日本産業規格)では溶接の技術を認証する「溶接技能者評価試験」という資格試験があり、多くの技術校生が訓練期間中に受験し合格しています。この試験は基本レベルのものから専門レベルまであり、多くの試験種目に合格していると、携われる仕事も多くなってきます。溶接の訓練では、この試験課題と同等のものを練習していきますので合格率も高くなっています。

Q 勉強が苦手なのですがついていけるでしょうか。

A 今までの例ですが、掛け算や割り算が苦手という方も入校されています。溶接・板金コースの指導員はきめ細かい指導を心がけており、苦手なところを克服できるように何度でも説明させていただきます。

Q 手先が不器用なのですが、ついていけるでしょうか。

A 手先が器用な人に比べると技術の習得には時間を要しますが、安心してください。不器用なら不器用なりのやり方でできるように指導のプロがサポートします。

Q 体力的についていけるでしょうか。

A 今現在は体力に自信がなくても、訓練が修了するころには自信が持てるようになると思います。訓練も徐々に慣れてもらえるようにカリキュラムを工夫しながら行っています。

Q 今までと全く違う職種ですが、就職できますか。

A 溶接・板金コースに入校される技術校生のほとんどは未経験です。コースの訓練カリキュラムは未経験の方を対象としており、多くの修了生が就職した現場で活躍されています。

Q 就職後はどのようなキャリアプランがありますか。

A 溶接工に就職した場合は、溶接技術をさらに向上して溶接技能者評価試験の専門レベルの取得や、溶接の指導者、施工管理の資格を取得される方もいらっしゃいます。板金工に就職した場合は技能検定(国家試験)の1級、2級を取得されてスキルアップされています。

Q 溶接の仕事はいわゆる3K(きつい、汚い、危険)なのですか。

A 私たちの住む街中には、構造物(ビルや橋など)や乗り物(飛行機、電車、自動車)から家電製品など至る所に金属製品があり、溶接技術や板金技術によって私たちの生活は支えられています。このような背景には工場で一所懸命に働いてる職人さんがおり、時には暑さで環境が過酷なことがあるかもしれませんが、現場の職人さんはモノづくりに誇りとやりがいをもって働かれています。

Q 年齢が50代ですが就職できますか。

A 企業の求人にもよりますが、過去に未経験の50代の方も就職している実績があります。

Q 女性ですが溶接工になりたいです。大丈夫でしょうか。

A 溶接・板金コースに入校される方の1割～2割は女性です。力仕事というイメージがあるかもしれませんが、最近はそのような現場で女性の活躍が目立ってきています。溶接作業は見た目には分かりづらいですが、かなり繊細な作業です。うまく溶接をする方も多く、企業からは高く評価されています。モノづくりに興味のある方はぜひ一度コースを見学しにいらしてください。